



江戸期の民藝

—暮らしに息づく美—

2017年4月4日(火) - 6月18日(日)

The Golden-age of MINGEI - life and beauty in Edo period

[写真・右上より時計回りに] 螺鈿漆絵鍵文菓子箱(部分) 京都 18世紀 / 手押文湯釜 鉄鑄製 18世紀 高31.0 cm / 加賀友禅 流水に鴛鴦文様裂 18世紀 縦39.6 cm / 鉄絵緑差松文甕 唐津 武雄 17世紀後半 高31.2 cm
〒153-0041 東京都目黒区駒場4-3-33 TEL.03-3467-4527 交通・京王井の頭線駒場東大前駅西口より徒歩7分

日本民藝館

<http://www.mingeikan.or.jp/>

民藝という言葉が誕生したのは1925年のこと。白樺派の同人で宗教哲学者であった柳宗悦（1889-1961）が、陶芸家の河井寛次郎（1890-1966）・濱田庄司（1894-1978）らと、日々の生活に供される平凡な品々に新たな美的価値と意義を見出したのが、その端緒でした。彼らは世の中から正しい評価を受けることなく、下手物と呼ばれ放置されてきた民衆の日常品を民衆的工芸と呼び慣わし、略して民藝と称したのです。

その多くは、名も無き職人たちの丁寧で篤実な仕事により担われました。日々の生活に仕えるためには、買い求めやすさ、品物の丈夫さ使いやすさは必需のこと。量産することによって、形や模様は簡素かつ明快なものへと純化されました。そして、深みのある落ち着いた色合いからは、無難な生活への願いや自然への従順さが感じ取れます。作り手の心の状態も極めて素直であり、無心であったのでしょうか。そこには作為に囚われることのない計らいのない美が宿っています。

さて、このような人間の生活に深く交る品である民藝品は、実はどこの国にも存在しているものなのですが、南北に多様な風土を持つ日本は、世界的に見ても独自の性格を帯びた品が数多く造られました。なかでも、江戸時代がその黄金期といえましょう。「工藝が民衆のものとなり、純日本のものに消化されて発達したのは、むしろ徳川時代なのです」（「日本民藝館について」1941年）と柳が指摘しているように、町民が文化の担い手となった江戸期になると、貴族や武士階級の間には浸透していなかった工芸の文化が一般庶民の間にも広がり、各種の工芸品が高度な発達を遂げていきました。

そして、鎖国という体制や300年近く続いた平和な社会が、「渋さ」や「粋」といった独自の美意識を育み、各地に暮らす人々の「生活の知恵」や「心の伝統」が、民藝という暮らしの造形へと結晶化されていったのです。当館に所蔵される蒐集品も、必然的にこの時代のものが最も多いのもうなずけます。

本展では、当館が所蔵する、伊万里・唐津・小代・薩摩など九州諸窯や、瀬戸や美濃、丹波の焼物をはじめ、滋賀県の大津周辺で描かれた大津絵や、長崎・大阪・江戸などで描かれた風景画を中心とする泥絵などの民画。筒描染の蒲団地や風呂敷、冠婚葬祭の折に女性が頭から被った庄内地方の被衣、鳶頭や職人の棟梁などが着用した鹿革の革羽織。朱塗りの椀や漆絵の盆や片口、螺鈿で模様をあしらった菓子箱、囲炉裏で用いる自在の横木、商家の看板や千石船で使用された船筆筒。その他、鉄瓶や燭台、鷹匠の餌畚や筍籠など約200点の優品を選び紹介します。

日本的な独創性に溢れる江戸期の民藝。日本人が培ってきた独自の美意識や造形感覚を映し出す、民藝美の粋をご堪能ください。



1



2



3



4



5



6

1. 呉須鉄絵撫子文石皿 瀬戸 19世紀 径27.0cm
2. 丸紋尽幕（部分） 19世紀
3. 大津絵 太夫 紙本着色 17世紀後半～18世紀前半 縦48.0cm
4. 煙管屋看板 19世紀 高132.5cm
5. 筍籠 京都 19世紀 縦27.0cm
6. 鉄釉白流三耳壺 小代 18世紀後半～19世紀 高52.5cm

記念講演会 看板と川柳に見る江戸の暮らし 4月29日(土祝) 18:00-19:30
 (講師) 谷田有史 (たばこと塩の博物館主任学芸員) [料金] 300円 (入館料別、要予約)

□開館時間 10:00-17:00 (入館は16:30まで) □休館日 月曜日 (ただし祝日の場合は開館し、翌日振替休館) □入館料 一般1,100円 大高生600円 中小生200円
 □西館公開日 (旧柳宗悦邸) 会期中の第2水曜、第2土曜、第3水曜、第3土曜 (開館時間10:00-16:30、入館は16:00まで) □所在地 〒153-0041 東京都目黒区駒場4-3-33
 □電話番号 03-3467-4527 □交通 京王井の頭線駒場東大前駅西口より徒歩7分

<http://www.mingeikan.or.jp/>

日本民藝館

次回展 色絵の器 - 天啓赤絵・呉州赤絵・古伊万里赤絵 6月27日(火)～8月27日(日)

